

鎮山親水プロジェクト

～森と水を未来へつなぐ挑戦～



熊本県山江村

山江村の概要

- 平成元年に開通した九州自動車道が南北に縦断しており、熊本市内から車で約1時間、隣接する人吉市の中心部からは車で約10分と交通の便に恵まれています。
- 人口：3,157人（男：1,472人・女：1,685人）令和7年2月末現在
- 世帯数：1,193世帯
- 高齢化率：38.14%
- 年少人口率：13.78%
- 面積：121.19km²（約90%が山林）
- 集落数：16区67集落
- 産業別人口
 - 第一次産業 288人（17.7%）
 - 高齢化率（農業）：68.4%
 - 農地面積：6.30km²
 - 第二次産業 393人（24.1%）
 - 第三次産業 950人（58.3%）
- 基幹産業は農林業（主な特産品：栗・米）

「やまえ栗」が特産品。栗まつりの開催や栗の日の制定など、栗が村のアイデンティティとなっている。栗の出荷量は410トン（昭和62年）に達して最盛期を迎えたが、現在は高齢化、担い手不足、環境変化により生産量約70.0トンに減少。

令和6年3月に地理的表示保護制度(GI)登録



やまえ栗

農林水産大臣登録第151号



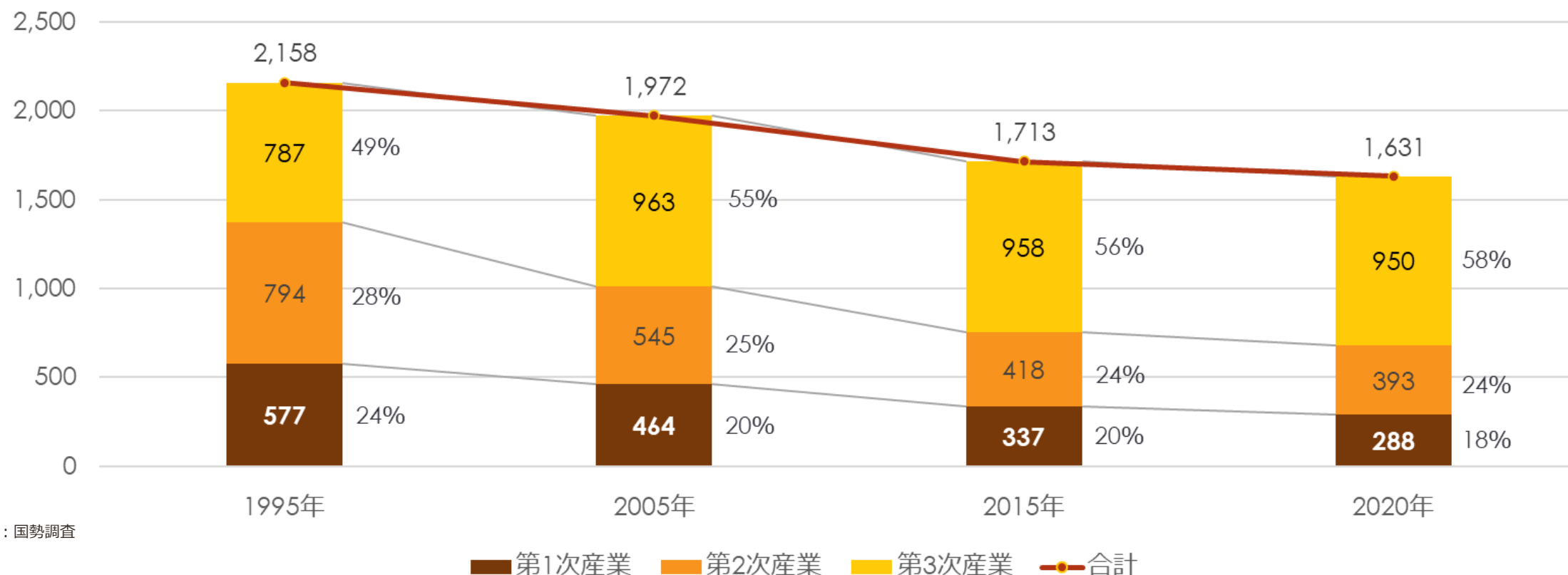
総人口の減少に伴い、就業者数は減少傾向にある。特に、山江村の基幹産業である第1産業の就業者数の減少は顕著であり、全就業者数に対する割合でも減少傾向である

産業（大分類）別 就業者数の推移

- ▶ 総人口減少に伴い、就業者数は減少傾向にあり、特に2020年の第1次産業就業者数は1995年対比50%減少と顕著である
- ▶ 就業者の割合では第3次→第2次→第1次の順であり、近年に近づくにつれてこの傾向は強くなってきている

[人]

産業三分類就業者数



現在

- ・壊された川
- ・見向かない山
- ・希薄したコミュニティ

令和2年7月
豪雨災害発生



※被災状況(万江川・山林)、ワークショップ

「地域住民の声」

基本理念

鎮山親水 (ちんさんしんすい)

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直すことを表した山江村復興事業の基本理念

未来像

- ◆山を守り、川と山との共存
- ◆災害に強く
自己治癒力の高い村づくり
- ◆自治コミュニケーションの再構築
- ◆復興による地方創生の実現

林業振興施策一覧

- ①鎮山親水植樹祭(皆伐地への植樹活動)
- ②鎮山親水林業塾(自伐型林業)
- ③村有林の管理
- ④鳥獣害対策(シカ・イノシシ・サル等)
- ⑤災害復旧事業(林道・作業道・治山)
- ⑥特用林産物の振興



上流域：大川内

治山施設から溢れる土砂

植樹活動の様子



②鎮山親水林業塾 (共催:九州林業塾)

(目的)

豪雨災害後、山林の木材と土砂の流出が多くみられた。山の管理が必要であるため、災害に強い林業である自伐型林業家（環境保全型林業）育成のため。

(参加者) R5年度：11名・R6年度：9名

(内 容)

- 小型バックホウ等の資格取得
- 立木の伐倒
- 作業道の開設
- 間伐木の選定など

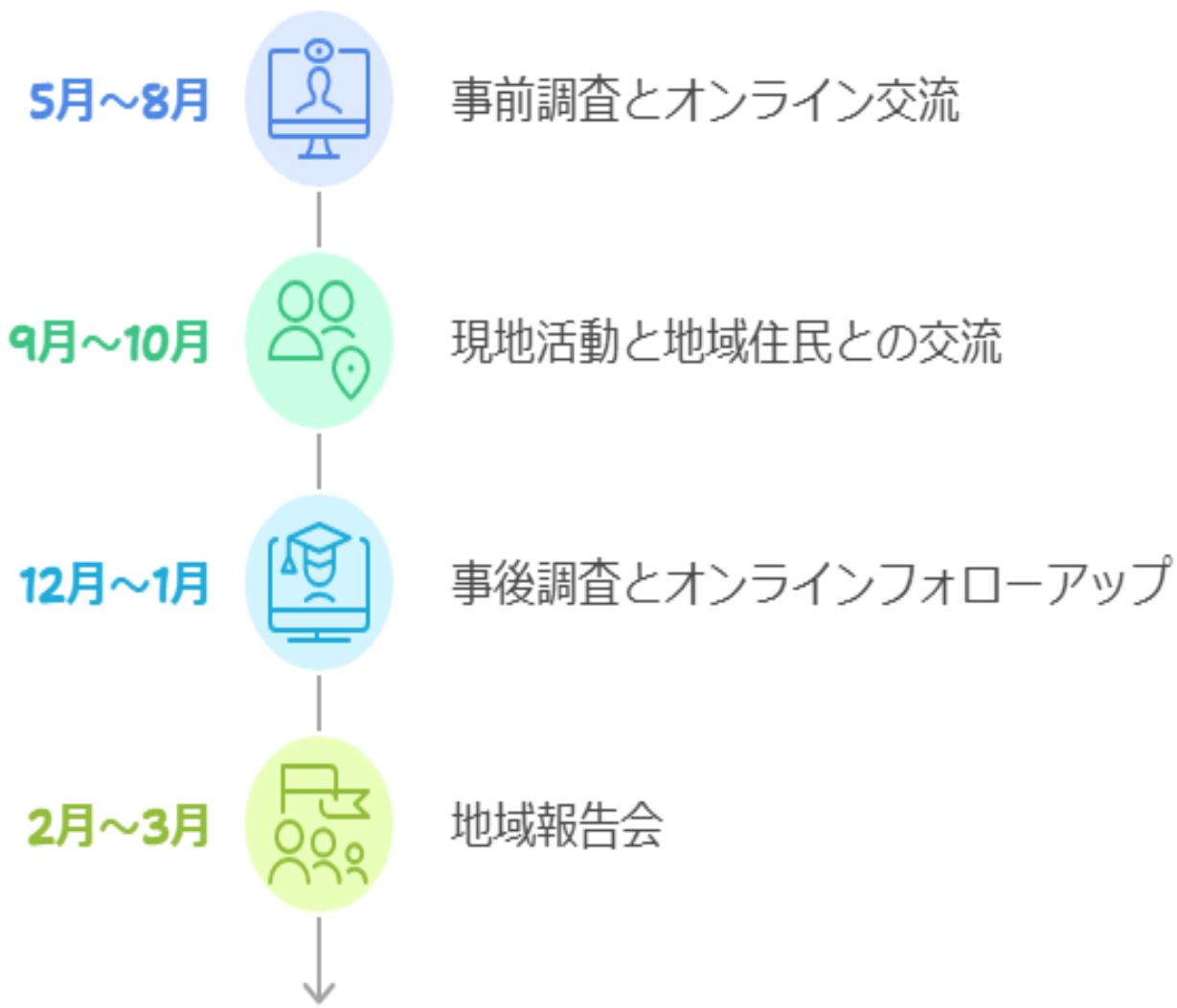
(効 果)

- 卒塾生による林業団体の発足
- 村民の山林へ目を向けるきっかけ
- 卒塾生に対し、山主さんが期待
※山の管理をしてくれるのではないか





地域参加のためのプロジェクトタイムライン



■背景と課題

自伐型林業塾で学んだ人たちが、森林保全と収入増を目指し「鎮山親水 千年の森づくりクラブ」を発足。しかしながら、担い手不足の観点からも森林所有者をはじめ、森林や環境保全に興味のある方々の自伐林業への取り組みを更に広めたい。

また、本村は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2045年までにはCO2排出量実質ゼロを目指している。施策の一つとして“バイオマス発電設備の導入”も検討しており、専門的な知見から自伐型林業に絡め、木材の安定供給への方策を考えたい。

■学生の皆さんに期待すること

- 現地調査では、地域住民や森林関係者、クラブ及び行政と連携し積極的な意見交換を行う
- 木材資源活用と価値創出のため、新しい活用方法（工芸品、薪、バイオ炭など）を考える
- 1年間の活動に限らず、次年度以降も後輩を連れて継続的な関係を築く